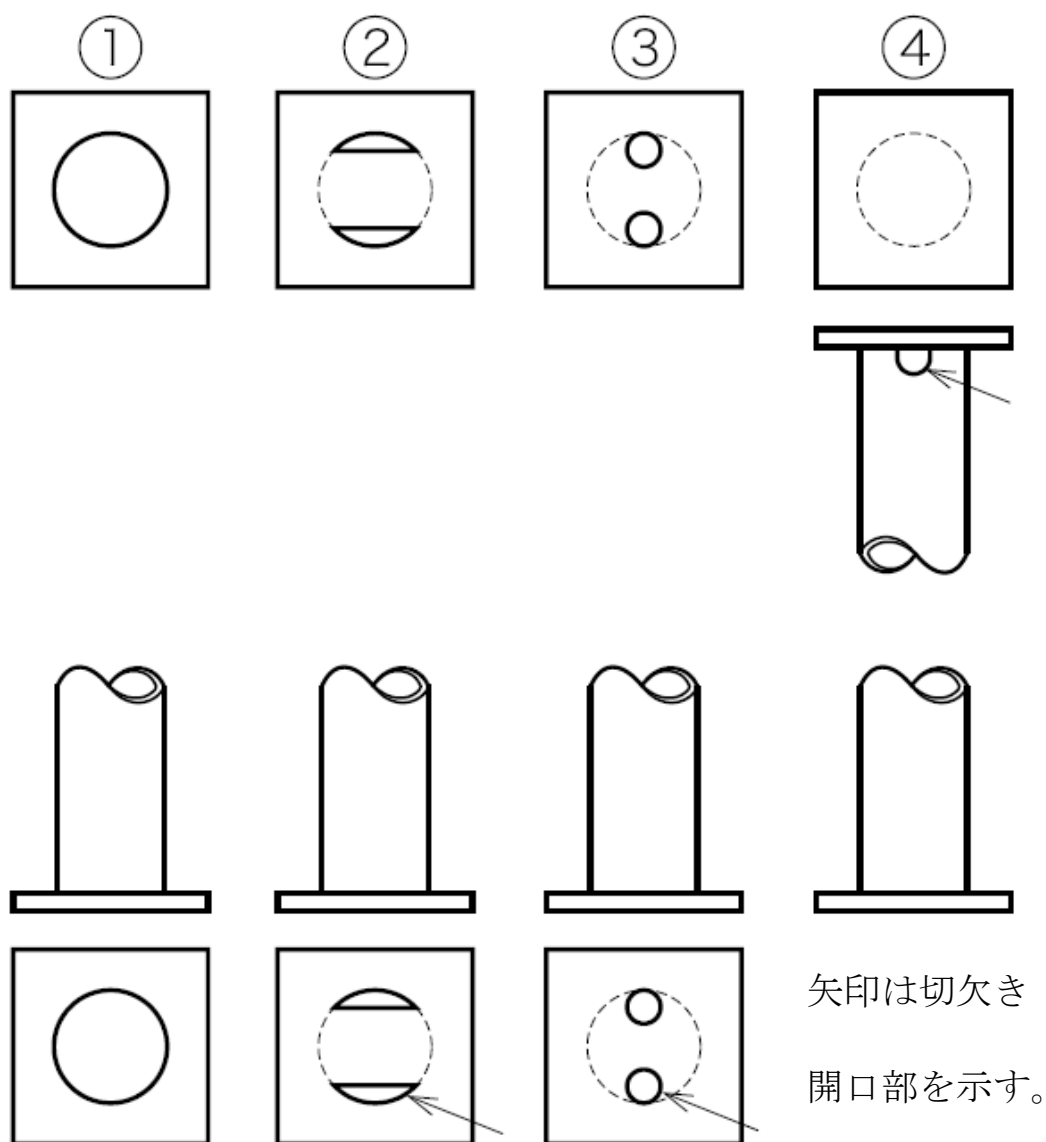


## 予防処置を必要とする素材

パイプ形状及びボックス形状の製品でベースプレートなどが付いている場合

管の両端又は一端を必ずあける。両端が管の内径に等しくあいているのが、めっき作業及び品質上好ましい。強度上それが困難である場合は、それぞれ中央部及び四隅に孔又は切欠きが必要である。



↑パイプ形状の製品でベースプレートなどが付いている場合の例

- ①： 両端とも内径に等しく開放された最も望ましい構造である。
- ②③： 両端とも内径に等しく開放できない場合，図のような切欠きを付ける。  
その大きさは直径の30 %以上開放されているものとし，素材直径が76 mm 未満は45 %以上とする。
- ④： ②及び③で一方があけられない場合は，本体に2 か所180° の位置で切欠きを付ける。

「日本規格協会発行 JIS H 8641」一部引用